Ⅰ　実践

１　研究主題

思いやりの心をもって，好ましい人間関係を築くことができる児童の育成

（１）主題設定の理由

本校は，複式学級のある小規模校である。昨年度から小規模特認校制度による転入児童の受け入れが始まり，４名の児童が転入し，全校児童は２８名となった。また，小中一貫教育も行われており，コミュニケーション科の新設や様々な表現活動の場を設定して取り組んでいるため，自分の考えを相手に伝えようと意識し，表現できるようになってきている。しかし，他校からの多くの転入児との出会いから新たな人間関係づくりが求められ、今後も課題となってくる。

そこで，異学年交流などの様々な体験活動を取り入れることで，お互いを知り，相手を思いやる心を育てたいと考え，本主題を設定した。

（２）研究の内容

ア　日立特別支援学校との交流学習（１・２年生）

イ　地域の高齢者福祉施設との交流学習（５・６年生）

ウ　豊かな体験活動の展開（縦割り班活動など）

エ　人権教育の環境づくり

２　実践内容

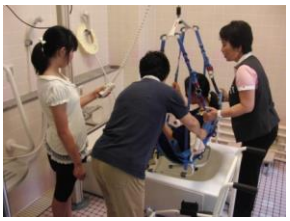
（１）日立特別支援学校との交流学習

昨年度から，年２回の交流となり，今年度も６月と１１月に実施した。１回目の６月の「なかよし集会」では，名刺交換やゲームなどを通して，お互いをよりよく知り仲良く活動することをねらいとして行った。雨天のため，中里交流センターでいろいろな遊具遊びをして楽しんだ。本校児童が進んで声をかけて遊びに誘ったりして自然に仲良く交流することができた。ふだんは，友達にもわがままを言ってしまうような児童も，自分を抑えて相手を思いやる行動がとれていた。

２回目１１月の「なかよし集会」に向けての児童たちの取り組みは，１回目と違って「どんなことをしてあげたいか」「どんなプレゼントがいいか」などを自分たちで話し合い，相手意識をもって集会の準備が行えた。２回実施できたことにより，より深い心の交流ができたことは大変よかったと感じた。最後のプレゼント交換では，学級会で話し合って作った，相手に喜んでもらえるしおりにメッセージを書いて渡した。事後には，心のこもった手紙の交換をすることで，さらにつながりを深めることができた。年間２回の実施となると難しい面も多いが，児童間のつながりを深めるために今後も継続して実施していきたい。

（２）地域の高齢者福祉施設との交流学習

５・６年生の総合的な学習の時間では，「中里の福祉を考え，自分たちにできることから始めてみよう」というテーマのもと，地域の高齢者福祉施設「山水苑」との交流を行っている。高齢者に対する思いやりや共に生きていこうとする心を育みたいというねらいで活動している。高齢者への接し方を事前に調べたり友達と話し合ったりして理解を深めたことで，自ら進んで高齢者にかかわり主体的に活動することができた。１回目の入浴や車椅子の模擬体験では，相手の立場に立って細かな心配りをしなければならないことがよく分かった。２回目の食事介護では，事前に食事メニューの写真を見ながら「どのようにお手伝いをすればよいのか」について学級で話し合いを行った。食事の場面をイメージしながら「声のかけ方」「食べ物の大きさと量」「食べ物の運び方」などを考えてから実際の介護体験に臨んだ。この活動を通して，一人一人が高齢者の方々を大切に思い，相手の立場に立って一生懸命に考えたり，戸惑いながらも進んで接したりする姿が見られ，心の変容を感じた。



（３）豊かな体験活動の展開

ア　みんなでランチ（年間３回実施）

健康委員会が中心になって，企画・準備・進行をしている。全校児童と教師全員を３つのグループに分けて，多目的教室を会場に，一緒に仲良く話をしながら給食を食べる活動である。小規模特認校制度による転入児とは，学年が違うとなかなか話す機会もないため，このような場でお互いを少しでも知り，友達になれるような効果も期待したい。また，普段なかなか話せない校長先生や事務の先生などとの食事も，児童はとても楽しみにしている。事後は，イラスト入りのカードに感想を書き，写真と共にパントリー近くの掲示板に掲示し，楽しい雰囲気作りをしている。

イ　異学年との交流（縦割り班活動）

本校は，児童数が少ないため，縦割り班での清掃活動を行っている。年度当初に，学年や兄弟，その他人間関係を考慮して教師側が５つの班に分け，清掃場所をローテーションしながら取り組んでいる。低学年を高学年が思いやる場面は，毎日のように自然に見られる。昼休みが終わると，低学年教室に迎えに行ったり，終わった後は一緒に連れてきてくれたりする姿もよく見かける。今年度は，特に新入生が７名もいて，上級生が優しく声をかけながら，やり方を教えて清掃に取り組んでいる様子がとてもほほえましい。

ウ　米作り（全校活動）

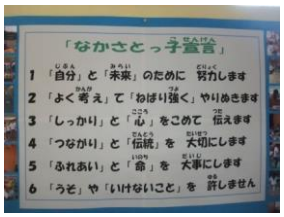
毎年，学校で水田を借りて，田植えから稲刈り，脱穀までを全校で取り組んでいる。今年度も５月に泥にまみれながら田植えをしたり，一人ずつ鎌を持って稲を刈ったりと低学年も一緒に張り切って取り組んだ。生まれて初めての体験という児童も多く，とてもよい活動ができた。今後も継続していくことになっている。

（４）人権教育の環境づくり

各教室に人権コーナーを設置して，自尊感情や他尊意識を高めていけるように努めている。

まほうのことば

ありがとうのきもちをつたえよう



なかさとっ子宣言

人権コーナー

３　成果

・各学級に設置した人権コーナーの活用により，友達のよいところや友達の考えなどの理解が深まり，他尊意識を育てたり，頑張った自分へのメッセージを書くことで自尊感情をも高めたりすることができた。今後もこうした取り組みをさらに充実させていきたい。

・小規模特認校制度による転入児が，早く本校に慣れて友達と仲良く生活できるようにするためにも，縦割り班活動や全校活動は大変効果的である。異学年間の交流をさらに深めていきたい。

Ⅱ　今後の課題

小規模校であるため，自分中心の考え方をしてしまう児童が見られる。各教科や道徳の時間など学校教育全体を通して，人権に関する学習をより充実させ，児童一人一人の人権意識を高めるための取り組みを計画的継続的に実践していきたい。

Ⅲ　人権コーナーの設置の様子

全児童の「人権メッセージ」を顔写真と共に掲示したり，特別支援学校との交流会や高齢者福祉施設での交流の写真などを掲示したりして，児童に啓蒙を図っている。